

岐阜市立女子短期大学将来構想委員会 答申の概要 (令和6年2月8日)

1. 将来構想策定に向けた基本的な考え方

- 公立大学として、さらには岐阜市にとっての市立大学の意義を、人材育成、地域活性化、課題解決など多面的に考察。
- 地域への貢献や我が国の未来を見据えて、大局的な見地から岐女短の将来像に関する提言を行う。

2. 大学・地域をめぐる現状

- 岐女短では、データサイエンス教育の推進等の改革を進めてきたが、入学定員を満たせていない状況が継続。
- 岐阜県の高校生の県内大学への進学者の割合は約22%。岐阜県では学力中間層の進学先が限定的であるため、県外、特に愛知県に進路が向けられる状況。

3. 将来構想の各論点

(1) 別学・共学のあり方

- 男女の大学進学率の差の縮小などジェンダー平等が浸透しつつある中、女子短大のニーズはかなり弱くなっている。
- 男女が社会の中で等しく役割を持ち、ともに豊かな社会を創造していくためには、人材育成の在り方についても時代に即した進化が求められる。
- 学生の教育にとって最適な環境を考えれば、LGBTを含めて多様な学生を受け入れ、男女や国籍などの背景を異にする多様な価値観に触れながら共に学び合う環境が実現するよう、共学への変革が必要。

(2) 4年制ニーズへの対応

- 社会の高度化に対応した能力を涵養しつつ専門分野の能力を高めることが必要だが、2年制の範囲内で対応は困難。
- 公立4年制大学の設置は、学力中間層の高校生の新たな進学先の創出につながり、高校卒業生が地元で学ぶ場の選択肢を広げる意味でも有意義。

(3) 提供する学問分野のあり方

- 公立大学は、地域の発展・イノベーションの起点となり、活性化の拠点となることが重要。人材育成と研究機能を持つ大学が、地域課題を解決し、地域活性化につながる。
- 岐女短の専門分野は、栄養、服飾、建築といった衣食住から豊かな生活を目指すものであり、地域活性化という課題にも直結。食の安全安心やバリアフリーなど現代的な課題への対峙により、社会の変革に更なる貢献が期待。また、国際コミュニケーションは、専門分野にかかわらず学びのベースとなる。
- 地域の発展・活性化というテーマで次の段階の貢献として、経済に着目すると、岐阜県では全国と同様、ファミリービジネスの後継者育成や地域産業を支えるリーダー育成の課題を抱えている。
- 地域経済活性化という軸で、経営・起業に関する専門分野をデータ活用・分析に関するスキルを交えながら学ぶコースを置くことが、新たな分野の方向性として考えられる。

(4) 地域連携・機関間連携の促進

- 教育研究のコアを定めるとともに、文理融合分野など、他大学との連携により強化していく部分も検討することが有益。
- 若者の流入を図るべく、市外・県外からも学生を受け入れ、多様な価値観が市に流入することは、地域活性化の観点から重要。
- 産学官が地域課題に向き合い、未来を切り開くというように、社会に開かれた形で発展していくことが地方公立大学の在るべき姿。

4. 今後期待される事項

- 研究機能の強化は、研究成果創出だけでなく人材育成の点からも重要であり、地域でのリスクリングを担う意味でも、4年制大学開設の検討と並行して大学院の設置についても検討していくべき。
- 大学がその使命を意識した自己改革や教育の質保証のための取組を行い、その内容を公開していくことが信頼・魅力につながる。
- 学生、企業、市民等のステークホルダーと丁寧なコミュニケーションを行い、岐阜市が地域の目指す姿を見据えて、新生「岐阜市設置の市立大学」像の実現に向けた取組を進めることを期待。